

かけはし

Vol.20
春号
Spring



浮見堂と架け橋 (in 鶯池)

自治体病院とともに58年

理 念

公益社団法人全国自治体病院協議会と自治体病院の発展に寄与することを目指します

基本方針

- ①協議会と協議会所属病院が行う事業に対し協力します
- ②会員を対象とする研修会等を実施します
- ③その他本会の目的達成のため必要な事業を行います

会 員

病院事業に関わる事業を営む者で本会の主旨を十分に理解した法人です

Contents

かけはし Vol.20 令和7年度 春号

全国自治体病院協議会・賛助会広報誌 <https://www.jmha-p.net/>

特集

「経営強化への取り組み」に関するシステム、サービス、製品等について

事業者と病院のマッチングシステム
病院管理会計システム
PHR基盤サービス

賛助会の紹介

賛助会組織について

賛助会ホームページについて

表紙写真の説明

病院経営を「モノからコトへ」——新サービス「コトセラ」とともにDX・ICTの新たな未来を

エム・シー・ヘルスケア株式会社

事業推進本部 事業開発部

<https://mc-healthcare.co.jp/>



病院を取り巻く環境は大きく変化しています。人手不足、高齢化、物価高など、病院経営の課題は多岐にわたり、従来の手法では対応が難しくなりつつあります。こうした状況の中で、医療の質を維持しながら業務負担を軽減するには、ICTやDXの活用が欠かせません。

エム・シー・ヘルスケアが2022年に立ち上げた「コトセラ」は、こうした病院経営の課題に対応するための新たなソリューションを提供するサービスです。ICTとDXを活用し、病院の働き方改革や経営改善を支援することで、スタッフの負担を減らし、より良い医療を提供する環境を整えるべく、さまざまなサポートを展開しています。

「コト」の視点が求められる病院経営

これまで病院経営においては、医療設備や機器、物品の調達といった「モノ」の管理が重要視されてきました。しかし、今求められているのは、それらをいかに活用し、限られたリソースの中で最適な医療を提供できるかという「コト」の視点です。

特に人手不足が深刻化する中、ICTやDXの導入によって業務の効率化や医療の質の向上を実現することが不可

欠となっています。「コトセラ」は、こうした視点を持ち、医療機関の持続可能な経営を支援する多様なソリューションを紹介しています。

ここでは「コトセラ」が特にお薦めする注目のサービスとして入院費保証サービス、経営コンサルティング、ITコンサルティング（システム導入支援）、スマートフォン導入を例にとりつつ、「コト」の視点について考察していきます。

「コトセラ」は約150のサービスと全国の医療機関をつなぐマッチングサービスを展開。

コトセラについて：コンセプト

コトセラは事業者と病院をつなぐマッチングプラットフォームです



未収金リスクを軽減する入院費保証サービス

病院経営において未収金の問題は深刻です。特に自治体病院では、公費補填の負担や督促業務の負荷が大きく、回収できない未収金に対して厳しい説明責任が求められる場合もあります。

「コトセラ」が紹介する入院費保証サービスは、患者が入院時に保証料を支払うことで、支払い不能になった

際に保証会社が立て替え払いを行い、その後の回収業務を引き継ぐ仕組みです。これにより、病院側のリスクが大幅に軽減されるだけでなく、患者も連帯保証人を立てる必要がなくなるため、心理的負担が軽減され、緊急時の迅速な入院手続きが可能となります。

経営とITの専門コンサルティングで病院を支援

病院経営の持続可能性を高めるためには、現場の実情に即した経営戦略が求められます。「コトセラ」の経営コンサルティングは、地方財務や病院経営に関するデータを基に、適正な人員配置や事業計画の策定、地域連携の強化を支援します。

また、IT コンサルティングでは、病院の実情に合わせ

た ICT 環境の整備をサポートします。特に新システム導入時のデータ連携や運用の切り替えをスムーズに進めるため、病院とベンダーの間に立ち、最適な選択肢を提示する役割を担っています。システム導入後も、院内の動きに応じた調整を継続的にを行い、無理なく IT 活用を進められる環境を整えます。

DXの第一歩、スマートフォン導入による業務改革

今、多くの施設でスマートフォンの導入が進み、PHS や PC からの移行により業務効率向上やデータ活用が促進されています。スタッフ間のコミュニケーションや情報共有が効率化し、医療情報システムとの連携によりカルテや検査結果の確認が容易になります。カメラや音声入力を活用すれば、記録作業の負担が減り、患者対応の時間も確保することができます。

一方で、スマートフォン導入は、新たなリスクを伴うものでもあります。適切な機種やアプリの選定はもちろん、セキュリティ対策の徹底などが重要です。

「コトセラ」は、機種・キャリア選定、通信環境整備、セキュリティ対策などを包括的に支援し、病院側の負担を抑えながら導入までを親身になってサポートします。

「コトセラ」とともに、次世代の病院経営へ

「コトセラ」が紹介・提供する入院費保証サービス、経営コンサルティング、IT コンサルティング、スマートフォン導入支援は、それぞれ異なる側面から病院を支援するものですが、共通する目的は「医療の質を維持しながら業務負担を減らし、持続可能性を高める」ことにあります。

特に自治体病院をはじめとする地域医療機関では、ICT や DX の活用を進めることで、より合理的な運営が求められています。病院経営が「モノからコトへ」と変わる今、「コトセラ」は多角的な支援を提供し、病院職員が

本来の業務に専念できる環境を整えます。

また、DX 推進のための補助金や助成金の活用も重要です。これらの制度を活かしながら、病院ごとに最適な導入プランを提案し、経営負担を軽減しながら効率的な DX を実現します。

これから次世代へとつないでいく病院経営の未来を見据え、「コトセラ」とともに、より良い医療環境の構築を目指していきましょう。

<エム・シー・ヘルスケアが提供するサービスについて>

SPD・医材等調達支援事業

医療材料のSPD(Supply Processing & Distribution)を通じ、効率的な物品管理にて病院の業務改善を実現。またベンチマークシステム、購買ノウハウを活用し、医療材料費の適正化を推進。



全国・地域の病院が取組む共同購入の支援事業

地域や経営母体を超えて各病院の意見や仕様を取りまとめることで、適切な価格による医療材料や医療機器の調達を支援。

医療機器調達支援事業

病院新築・改築時など、医療機器の購入検討段階から最適な調達計画をコンサルティングし、ベンダーフリーの立場で支援。

医療機器保守管理事業

医療機器のライフサイクル・コストに着目した、医療機器の保守・管理サービスを提供。

医療機関向けサービス導入支援「コトセラ」

医療機関の働き方改革、経営改善、業務効率化を叶えるための最新サービスを紹介。

病院管理会計システムKEYbird

税理士法人 日本経営

Waculba事業部

<https://nktax.or.jp/>



病院の原価計算（病棟別損益や診療科別損益）、財務分析、中長期的な財務戦略策定ができる病院財務・管理会計システムKEYbirdを紹介します。あわせて、病院原価計算統計調査の協力病院も募集中です。病院原価計算に興味がある方は奮ってご参加ください。

病院を取り巻く様々な環境変化に伴い、病院の財務状況は厳しさを増している。経営者の皆様においても漠然とした不安を抱いている方は多いのではないだろうか。

- ・決算書は見ているが、**財務分析**をして、法人の課題が把握できていない。
- ・**予算**を作るべきだとは思うが、どのように作成すれば良いかわからない。
- ・今の経営のままで**将来の資金繰り**は大丈夫なのか？**投資**はどこまでして良い？
- ・病院の**部門別の採算**を把握したい。**医師の評価**に財務の数値を使いたい。

・**中長期的な病院の戦略**を立てたいが、数値に落とし込むことが難しい。

今後、日本の国家財政を考えると、以前のような診療報酬のプラス改定を見込むことは困難である。病院経営で適正な利益を確保するためには、財務状況を把握し、コストを管理（コントロール）することが重要である。

このような経営者の悩みにこたえるべく生まれたのが、病院管理会計システムKEYbirdである。「経営強化の取り組み」として、ぜひ財務・管理会計分野に目を向けていただきたい。

病院財務・管理会計システム



詳細はこちら 

POINT1 **最小限**のデータのアップロードで、**一定の品質**のアウトプットを担保

POINT2 **直観的**に操作でき、**納得の精度**までこだわられる仕様

POINT3 **専門的な知識は不要** システムが必要なアウトプットまで提供！

POINT4 早期に数値を可視化することで、関与するものの**理解を深める**ことができる



2025年頃リリース！

原価計算 **未** 対応でもOK！

病院原価計算統計調査 協力病院 募集します

参加
無料

対象：DPC対象病院、DPC準備病院、データ提出加算届出病院

自院の病棟や診療科別の損益、他院と比較してどうなんだろう？
そんな疑問にお応えする統計調査を実施します。



ご協力特典

1

統計調査結果 & 自院の病棟別・診療科別損益計算書が手に入る

統計調査指標（例）

- ・診療科別 医師人件費率
- ・部門別 看護師人件費率
- ・各病棟 1床あたり固定費

2

先着20法人様限定！コンサルタントによる自院の原価計算解説

3

協力病院限定！原価計算統計結果解説セミナーのご案内

ご用意いただく資料（2024年10月分）

- ・ Dファイル・EF統合ファイル
- ・ 延患者数（部門別・診療科別）
- ・ 給与データ
- ・ 試算表

お申込み期限

2025年6月2日(月)

お申込みはこちら



<https://x.gd/GKSsX>

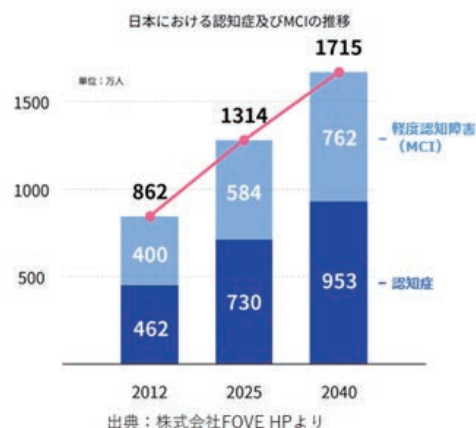
VRと視線追跡技術を利用した次世代ヘルスケア機器 「認知機能セルフチェッカー」

東和薬品株式会社
事業推進統括部 ヘルスケア事業推進部
<https://www.towayakuhin.co.jp/>



国内における認知症患者・予備軍

認知症の有病率は年齢とともに急峻に高まることが知られています。現在、65歳以上の約16%が認知症であると推計されており、日本は世界一の長寿国であり、認知症と共に生きる高齢者の人口は今後も増加し、2025年には高齢者の5人に1人、国民の17人に1人が認知症に、2040年には65歳以上の40%が認知症またはその予備軍になるものと予測されています。



認知症予防のカギはMCI（軽度認知障害）の早期発見

近年、『MCI（軽度認知障害）』という言葉が特に注目されています。認知症を発症する前段階を指し、認知機能に若干の衰えがあるものの、日常生活にはほとんど影響のない状態と定義されています。このMCIをそのまま放置すると、5年後にはおよそ4割の方が「認知症」へ進行すると言われ、逆にMCI段階で対策（生活習慣の改善等）を行うと、14～44%の方が健康な状態まで回復したという研究報告があります。認知症は治療が難しいからこそ、

健康な時から定期的に自分自身の認知機能を把握し、万が一認知機能に低下がみられた場合でも、早期に適切な対策をとることが大切です。



出典：朝田隆：認知神経科学, Vol.11, No.3-4, 「軽度認知障害 (MCI)」, 252-257, 2009

簡易スクリーニング：認知機能セルフチェッカー

医療機関で実際に利用される「神経心理学的検査」をベースに、「記憶・注意・言語・計算・空間認識」の5つの認知領域を測定します。利用者は正解の選択肢を見つめることで回答いただく簡易的なテストです。従来の検査では、筆記や口頭試問により15～20分の時間がかかっており、検査の実施者・受診者双方への負担が課題とされていました。一方で認知機能セルフチェッカーは視線情報のみでの回答で所要時間

も5分と負担軽減を実現し、認知機能低下のリスクがある場合は受診勧奨に繋げて頂くサービスです。



本機器は、認知症の診断を行うものではなく、また医療機器ではありません。診断・治療については医師による複合的な判断が必要です。

地域医療連携を支援する双方向型PHR基盤サービス 「ヘルスケアパスポート」

東和薬品株式会社
営業統括部 地域医療推進部

<https://www.towayakuhin.co.jp/>



ヘルスケアパスポートとは

ヘルスケアパスポートは、地域医療連携を支援する双方向型PHR基盤サービスです。

“患者と地域医療のつながりを深め、支えること”を目的に誕生した、医療従事者・患者・自治体を、健康・医療情報でつなぐ双方向型の地域医療連携サービス「ヘルスケアパスポート」。これまでの地域医療連携で課題とされていた、医療従事者と患者の間での双方向の健康・医療情報が共有できることが最大の特長です。より良い医療の提供と患者の健康増進に貢献できるサービスとして、注目を集めています。

【Point1】患者のPHRを確認でき診療に役立てる事が可能

身長・体重、体温、血圧など、患者が日々記録するバイタルデータが医療機関に自動で連携されるほか、他の医療機関での検査結果や処方内容から、患者の健康状態がより具体的に把握できるため、適切な治療に役立てられます。



【Point2】検査結果を還元することで患者のアドヒアランス向上に寄与

医療機関で実施した検査結果や処方情報を、患者や家族のスマートフォンアプリに還元。

患者が検査や服薬などの情報を継続的に見ることで、治療への積極的な参加を促します。



【Point3】「施設間連絡メモ」機能を使うことで施設間のスムーズなコミュニケーションが可能

ヘルスケアパスポートの導入施設間で、患者の情報をチャット形式でやり取りできる機能「施設間連絡メモ」。患者を紹介、逆紹介する際に必要な文書や検査結果(PDF)などの共有が可能で、施設間の連絡に有用な機能として活用いただけます。



*ヘルスケアパスポートはTIS株式会社の商標です。



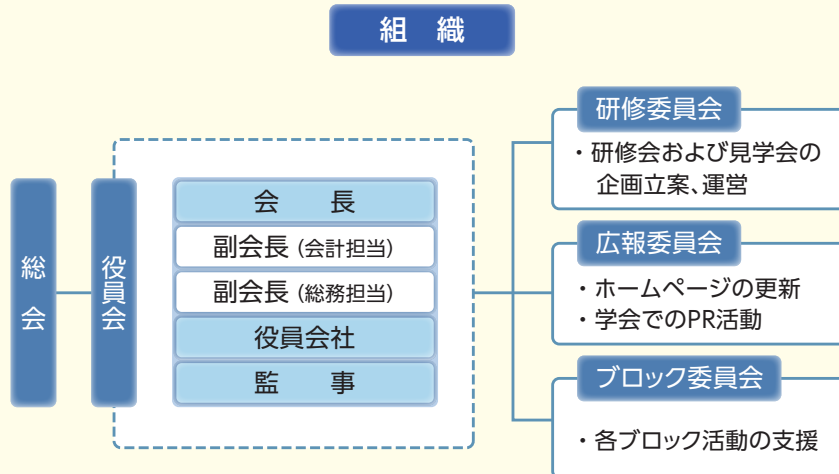
ヘルスケアパスポートをもっと詳しく知りたい方はこちら

<https://www.towayakuhin.co.jp/healthcare/lp/healthcare-passport/>

全国自治体病院協議会・賛助会について

全国自治体病院協議会・賛助会は全国自治体病院協議会が昭和37年（1962年）4月に設立されたのを受け、その後、協議会の趣旨を理解し自治体病院の発展に寄与することを目的とし、昭和43年（1968年）7月17日に病院関連の有志企業によって結成されました。全国自治体病院協議会・賛助会（以下、賛助会）は、全国自治体病院協議会の目的を理解し、自治体病院の発展のために寄与するとともに、賛助会員相互の向上を図ることを目的とする法人格を持たない任意の団体です。

賛助会の会員は、病院事業に関わる事業を営む者で賛助会の主旨に賛同した者で、現在124社が所属しています。



賛助会令和7年度事業計画

令和7年

4月	定時総会
5月～9月	協議会主催のブロック会議への参加
9月	第1回研修会
10月	自治体病院学会
12月	忘年会

令和8年

1月	新春賀詞交歓会
2月	第2回研修会
3月	協議会への賛助金贈呈
4月	定時総会
5月～9月	協議会主催のブロック会議参加

当賛助会では、広報誌“かけはし”が年2回（春・秋）発行され、病院のお役立ち情報を主に掲載しています。Vol.20 春号では「経営強化の取り組み」の特集として、事業者と病院のマッチングシステムや、病院管理会計システムをご紹介させて頂きました。また、認知機能に関する次世代ヘルスケア機器や、地域連携を支援するPHR 基盤サービスや、今後の医療に貢献出来るサービスをご紹介させて頂いております。今後の加盟社の製品・サービスのご紹介をご期待下さい。



令和6年度賛助会活動報告

令和6年度賀詞交歓会

開催日:令和6年9月19日(木)～20日(金) 場所:ルポール麹町



公益社団法人全国自治体病院協議会、(株)自治体病院共済会から多くの来賓をお迎えし、盛大に賀詞交歓会を開催することが出来ました。

令和6年度第2回研修会

開催日:令和7年2月20日(木)～21日(金)

場所:山梨県地場産業センターかいてらす スパランドホテル内藤



公益社団法人全国自治体病院協議会副会長小阪真二先生(島根県立中央病院院長)より、「医療資源の少ない島根県における病病・病診・医療介護連携」をテーマにご講演頂きました。また、全国自治体病院協議会報告を吉野事務局長、(株)自治体病院共済会報告を笠井専務より頂きました。

(株)内藤ハウスによる企業紹介がおこなわれました。



研修会終了後には、スパランドホテル内藤にて、懇親会を開催致しました。懇親会には、講師の小阪先生をはじめ、ご来賓の方々にも出席頂き、参加者間の親睦を深めることが出来ました。

令和6年度賛助会活動報告

令和6年度賛助金贈呈式

開催日:令和7年3月13日(木) 場所:都市センターホテル



賛助会から全国自治体病院協議会に対し、賛助金の贈呈がおこなわれました。

令和7年度(第58期)定期総会・懇親会

開催日:令和7年4月17日(木) 場所:砂防会館別館会議室(立山)
海運クラブ2階ホール



砂防会館別館（立山）にて、令和7年度（第58期）定期総会が開催され議案書が承認されました。その後、海運クラブ2階ホールにて全国自治体病院協議会、自治体病院共済会から多数のご参加を頂きました。



賛助会 ホームページの利用方法

全国自治体病院協議会・賛助会と検索するか、検索画面のアドレスバーに下記のアドレスを入力してください。当賛助会のトップページが表示されます。病院お役立ち情報は、下記の方法で検索できます。

トップページ URL <https://www.jmha-p.net/>

病院お役立ち情報 URL <https://www.jmha-p.net/outputs/>



トップページ画面

表紙写真の説明



撮影者：賛助会 第2ブロック 平岡秀一氏

浮見堂と架け橋 (in 鶯池)

奈良公園は、国の天然記念物に指定されているシカがいることで有名ですが、その近くに観光客もそれほど多くない場所で、観光の「穴場スポット」といってよい場所をご紹介します。それは、鶯池の中にある“浮見堂”と“架け橋”です。奈良公園の南方に位置し、春日山が源流の率川（いさがわ）の水が流れ込んでできた鶯池に岸から純和風の橋がかかっていて、渡っていくと六角形の浮見堂があるのですが、本当に風光明媚な場所です。

浮見堂は大正5年に建てられ、その後、平成6年に改築され現在のような建物になりました。屋根は檜皮葺き（ひわだぶき）となっていて、中で座って外の桜や紅葉といった四季折々の景色を、どこからでも楽しめるようになっています。又、岸から眺める浮見堂にも感動させられます。広々とした池の真ん中にまるで水面に浮かび上がっているかのようです。

今回は私が春に訪れたい場所をご紹介します。

～ 公益社団法人 全国自治体病院協議会と共に58年 ～
全国自治体病院協議会・賛助会



《 当賛助会は、公益社団法人 全国自治体病院協議会への協力と自治体病院の発展に寄与することを目的としています 》

第1ブロック 医療機器・メーカー部門 (26社)

- 1 小川医理器(株)
- 2 グリーンホスピタルサプライ(株)
- 3 コニカミノルタジャパン(株)
- 4 サカセ化学工業(株)
- 5 サクラ精機(株)
- 6 GEヘルスケア・ジャパン(株)
- 7 シーホネンス(株)
- 8 シーメンスヘルスケア(株)
- 9 (株)ジェイ・トラスト
- 10 シスメックス(株)
- 11 (株)島津製作所
- 12 (株)タカゾノ
- 13 (株)千代田テクノル
- 14 テルモ(株)
- 15 日機装(株)
- 16 ニプロ(株)
- 17 日本光電工業(株)
- 18 パラマウントベッド(株)
- 19 (株)フィリップス・ジャパン
- 20 フクダ電子(株)
- 21 富士電機(株)
- 22 富士フイルムメディカル(株)
- 23 (株)ホギメディカル
- 24 村中医療器(株)
- 25 (株)理舎
- 26 (株)リブドゥコーポレーション

第2ブロック 施設設備部門 (30社)

- 1 アーパス技研工業(株)
- 2 (株)アイホー
- 3 アズビル(株)
- 4 アルファエネシア(株)
- 5 エア・ウォーター防災(株)
- 6 (株)オカムラ
- 7 北沢産業(株)
- 8 コクヨ(株)
- 9 コマニー(株)
- 10 三建設工業(株)
- 11 (株)三晃空調
- 12 三和シヤッター工業(株)
- 13 シンフォニアエンジニアリング(株)
- 14 スパイラックス・サーコ合同会社
- 15 (株)セントラルユニ
- 16 ダイダン(株)
- 17 田島ルーフィング(株)
- 18 (株)中西製作所
- 19 日本空調システム(株)
- 20 (株)日本シューター
- 21 日本調理機(株)
- 22 能美防災(株)
- 23 (株)パートナー
- 24 菱機工業(株)
- 25 不二サッシ(株)
- 26 (株)フジマック
- 27 文化シヤッター(株)
- 28 ホシザキ販売(株)
- 29 山金工業(株)
- 30 ヤンマーエネルギーシステム(株)

第3ブロック 設計建築部門 (24社)

- 1 (株)梓設計
- 2 (株)石本建築事務所
- 3 (株)伊藤喜三郎建築研究所
- 4 鹿島建設(株)
- 5 木内建設(株)
- 6 (株)教育施設研究所
- 7 (株)楠山設計
- 8 (株)久米設計
- 9 (株)佐藤総合計画
- 10 (株)昭和設計
- 11 (株)大建設
- 12 大和リース(株)
- 13 (株)竹中工務店
- 14 戸田建設(株)
- 15 (株)内藤建築事務所
- 16 (株)内藤ハウス
- 17 平井工業(株)
- 18 (株)藤木工務店
- 19 (株)フジタ
- 20 (株)松田平田設計
- 21 (株)松村組
- 22 (株)村田相互設計
- 23 (株)山田総合設計
- 24 (株)横河建築設計事務所

第4ブロック 製薬部門 (7社)

- 1 エーザイ(株)
- 2 共創未来ファーマ(株)
- 3 沢井製薬(株)
- 4 田辺三菱製薬(株)
- 5 東和薬品(株)
- 6 日本ケミファ(株)
- 7 持田製薬(株)

第5ブロック 医療関連サービス部門 (29社)

- 1 (株)アートネイチャー
- 2 (株)アメニティ
- 3 (株)医療開発研究所
- 4 (株)イントラスト
- 5 (株)エヌジェーシー
- 6 (株)エフエスユニマネジメント
- 7 エム・シー・ヘルスケア(株)
- 8 (株)エラン
- 9 (株)LSIメディエンス
- 10 (株)グローバルヘルスコンサルティング・ジャパン
- 11 ケイ・アンビエンテ(株)
- 12 (株)サンワ
- 13 (株)シード・プランニング
- 14 (株)ジェイワールドトラベル
- 15 (株)システム環境研究所
- 16 (株)じほう
- 17 (株)ソラスト
- 18 (株)トーカイ
- 19 (株)ニチイ学館
- 20 (株)日本経営
- 21 (株)パースジャパン
- 22 PwCコンサルティング合同会社
- 23 (株)病院システム
- 24 フィルタス(株)
- 25 富士産業(株)
- 26 (株)プラスPM
- 27 ベストワールド(株)
- 28 (株)丸井工文社
- 29 八尾医療PFI(株)

第6ブロック 情報通信部門 (8社)

- 1 (株)アイシーエム
- 2 (株)ITガード
- 3 アイホン(株)
- 4 (株)アルム
- 5 (株)アルメックス
- 6 (株)ヴァイタス
- 7 (株)ケアコム
- 8 (株)メドコム

各会員企業へのご連絡は…
全国自治体病院協議会・賛助会

<https://www.jmha-p.net/>
2次元バーコードでも確認できます



2025年度 三役会社

会長会社 富士電機(株)
副会長会社(会計) アイホン(株)
副会長会社(総務) テルモ(株)

会員数 124社(2025年4月1日現在)

本誌掲載記事の無断転載を禁じます